

窓

京都新聞 令和2年(2020年)1月22日(水)

ICT化子どものためか

伏見区・森本 康太(大学生・20)

私は、教師になるという夢を持っている。この夢をかなえるため、教師になるための塾に通っている。その塾では、自治体の持つ施設を訪れ、体験する機会がたくさん用意されている。

これらの施設は、実際に子どもたちが体験するものであり、その様子を見せてもらうこともできた。

ここで気がついたのが、「本物に触れる」ということがいかに大切かということである。体験してい

た子どもたちは、目を輝かせており、楽しく学ぶことができていたように思う。それは、子どもたちが普段はバーチャルな物に慣れ親しんでいるからだと感じる。

しかし、先日発表された政府の経済対策にもあるように、教育のICT化はどんどん進むだろう。つまり、「本物に触れる」ことの機会は減っていく。本当に子どものためになっていくのか。子どものためになることを考えられる教師になりたいと思う。

※無断転載不可